

## 【教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること】

現代の社会は、さまざまな問題を抱えながら、目まぐるしい変化を続けている。本学教育学部は、社会の今日的課題に積極的に取り組み、解決していく能力をもち、特に地域の教育に貢献できる人材の養成をめざしている。また、人間形成にも重きをおき、学生一人ひとりの知的教養を磨き、芸術・文化・自然などに対する感性を養うとともに、他者への深い共感や専門知識に裏づけられた知性を合わせもつ、豊かな人格の形成を目標としている。

この教育目標を達成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

1. 自主的に課題を解決できる能力を育成するために、双方向的な授業、学生参加型授業、課題解決・探求型授業を工夫するとともに、体験的な学習活動の充実を図る。
2. 社会・文化・自然・環境についての幅広い知識を身につける教養教育科目、学校教育に関わる基本的知識を身につける共通教職科目、得意分野の力を伸ばす専門的科目を適切に配置し、初年次教育から卒業研究に至るまでの体系化を図る。
3. 取得免許状の種類に応じて、教科指導や生徒指導の力を育成する科目、得意分野の力を伸ばす得意分野育成科目を充実させ適切に配置することによって、確実な指導力を持つ教師の養成をめざす。
4. 教育現場において適切に思考し判断することのできる力量を育成するために、教育実習を中心とした体系的で実践的な教育参加カリキュラムを編成する。
5. 使命感や倫理観を具えた教師を養成するために、少人数による演習科目や多様な価値観を学ぶ講義科目を配置する。
6. 他者や社会についての的確に理解し、適切な思考・判断にもとづいて他者にわかりやすく伝える力量を育成するために、実践的な科目や演習科目を設ける。
7. 成績評価は、各科目において成績評価の基準と成績評価の方法を明示して、授業の到達目標の達成度を測る。成績評価の方法は、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録および発表・報告など多様な方法の中から適切な方法を選択または組み合わせを行う。各科目において、授業の到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準はシラバスに明記する。

そして、本学部の教育目標のために設定された授業科目を所定の方法により履修し、単位を取得した者に対して、以下のような能力を修得したとして、学士（教育）を授与する。

1. 自主的に課題を解決できる能力を持っている。
2. 社会・文化・自然・環境などに対する的確な認識、学校教育に関わる基本的知識、及び得意分野に関する専門的知識を持っている。
3. 取得免許状の種類に応じた教科指導や生徒指導についての的確な認識を持っている。
4. 教育現場において適切に思考し判断することができる。
5. 教育の専門家に求められる使命感や倫理観を持っている。
6. 社会人として適切に思考し、他者に対してわかりやすく伝えることができる。